

実践例⑥ 第3学年 学級活動

1 議 題 「3年2組お楽しみ会をしよう」(学級活動(1))

2 目 標

		知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
事前	全員	○ 本時の議題・提案理由・柱から、何について話し合うのかを理解できる。	○ 提案理由や話合いの柱に沿って、自分なりの考えをもつことができる。	○ 学級をよりよくするために、進んで議題案を見つけようとする。
	計画委	○ 司会団としての自分の役割と話合いの進め方を理解することができる。	○ 取り上げなければならない問題の優先順位を考えることができる。	○ 教師の助言を受け、進んで話合いの計画を立てようとする。
本時	全員	○ 発表の仕方や友達の発表を聞く時の態度など、話合いのきまりを理解できる。	○ 順序を考えて自分の意見を言ったり、話合いの流れに沿った意見を言ったりすることができる。	○ 話合いのめあてや柱を意識しながら、進んで話合いに参加しようとする。
	司会団	○ 司会団としての自分の役割と話合いの進め方を理解できる。	○ みんなの発表を聞きながら、話合いの柱に沿って進行をすることができる。	○ よりよい話合いにするために、司会団で協力して進行をしようとする。
事後	全員	○ 自分や友達のよさや違いを認め合い、みんなで協力して取り組むことの大切さを理解できる。	○ 全員が楽しめることを考えながら、活動に取り組むことができる。	○ 話合いで決まったことを、進んで実践しようとする。

3 本校の研究テーマとの関連 ※ _____下線部は、本単元の重点

(1) 研究テーマ「自己を見つめ、他者のよさに気づき、互いに認め励まし高め合う子どもの育成
～自己肯定感を高める取組を通して～」

(2) 研究の視点

視点ア②学習過程	視点イ②交流活動の充実
話合い活動の流れを身に付け、自他の意見を大事にした話合い活動を進めることで、自信をもって授業に参加することができるようにする。	話合い活動における子ども同士の意見の練り合いにより「他者理解」を深め、「認め合う」ことができるようにする。

4 実 際

(1) 目 標

ア めあてや提案理由、話合いの柱を意識しながら積極的に話合いに参加しようとする。【学・人】

イ 思い出に残るお楽しみ会にするために、どんな会を行えばよいか考え、話し合う。【思・判・表】

ウ 発表の仕方や聞くときの態度など話合いのきまりや基本的な進め方を理解できる。【知・技】

(2) 自己肯定感を高める「他者のよさに気づき、互いに認める」手立て

視点ア②学習過程	視点イ②交流活動の充実
ア 話合いの流れを示した話合い活動ノートに、前もって自分の考えを準備することで、話合いの流れに見通しをもって、進んで参加することができるようにする。 イ 子どもが思いや考えを書いた話合い活動ノートに教師が事前に目を通してコメントを記入したり、言葉掛けをしたりすることで、子どもが自信をもって発言することができるようにする。 ウ 話合い活動の記録をする黒板に話合いの流れが分かるマークや賛成・心配な意見マークなどを使うことで話合いの流れを把握し、それぞれの意見への状況が分かるようにする。 エ 司会団と教師が事前に打合せを行うことで、話合いの進め方やまとめへの見通しをもつことができ、安心して話合いを進めるようにする。 オ 計画から実践までの取組を称賛することで、みんなで決めたことを実践することの喜びを感じることができ、今後も友達と協力して話合い、行動しようとする態度を育むようにする。	ア グループで自分の意見を伝え合うことで、自分の意見だけでなく友達の意見を知ることができ、自他の意見を比べたりそのよさを認め合ったりするようにする。 イ グループで話し合う時間を設定し、グループの中で自分の意見を伝えたり、自分の意見に対する友達の意見を聞いたりすることで、自分の考えを再構築するようにする。 ウ グループから出された意見を子ども同士で練り合う場を設定することで、自分たちの意見に自信をもったり、他者の意見の意図に気づき変化・付加したりするようにする。 エ 発表した人に対する拍手やうなずきなどの聞く態度を育むことで、自分の意見を大事にされた自覚や相手の意見を大事にしようとする思いや認め合おうとする雰囲気を作るようにする。 オ 出された意見を短冊に書いて板書に活用することで自分たちの出した意見を大事に扱われていると感じるようにする。 カ 複数の意見が出たときの折り合いのつけ方を示すことで、自分の意見だけでなく複数の意見のよさを集めたり、優先順位をつけたりするようにする。

(3) 本時の流れ

1【問題の意識化】議題を確認し、本時のめあてを確かめる。

C：学級で楽しい思い出を作りたいので「お楽しみ会」を提案します
T：いい議題ですね。お楽しみ会は、全員が参加するので、どんな会にするか、何をするか、みんなで決めることができるといいですね。

自分の意見を伝え、友達のことを聞こう。

C：話し合いを始めます。めあてを達成できるように協力しましょう。
C：意見には理由を付けてください。よりよい意見を作りましょう。



2【議題の追究】柱に沿って話し合う。

(1) 柱Ⅰ「どんなお楽しみ会にするか」

C：楽しくて、みんなが思い出に残る会にしたい。
C：みんなが笑顔になる会にしたい。
C：ルールを守って、仲よくできる会にしたい。
C：Aさんの「仲よく」と「ルール」をミックスする！
C：全ての意見がお楽しみ会のねらいにできる。

(2) 柱Ⅱ「何をするか」

C：けいどろ、毎週みんなで遊ぶ日にやっているから。
C：ドッジボール、走るのが苦手な人も楽しめるから。
C：自慢大会、みんなの特技を生かせるし楽しいから。
C：けいどろに賛成、昼休みにみんなでよくやるから。
C：自慢大会に賛成、一人ひとりが主役になれるから。



3【実践への意欲化】決まったことを発表し、本時を振り返る。

(1) 決まったことの発表

柱Ⅰでは、みんなが出した意見全てをつなげて達成する、
柱Ⅱでは、けいどろと自慢大会をすることに決まりました。

(2) 本時の振り返りをする。

T：今日の振り返りをしましょう。
C：Aさんが柱Ⅰの意見をまとめたので、わかりやすく決まった。
C：Bさんが柱Ⅱの意見でミックスを使っただけで、なるほどと思った。
C：司会団がたくさんの意見を整理したりまとめたり頑張っていた。
C：Cさんは、たくさんの意見を出していてすごかった。
T：友達の良さを見つけることができる良さ、素晴らしいですね。



5 考 察

- 学級活動（話し合い活動）における学習過程の定着を図ることで、建設的な話し合いの仕方が身に付き、自他の意見を尊重することができた。話し合い活動の定型を身に付けることも大切である。
- グループや全体で意見を交流する活動では、理由を明らかにして、一つひとつの意見をつなぐことにより深まっていく。自他が認め合い、意見を大切に扱うことで、実践への意欲が高まった。